

「エネルギーグループ知的財産報告書（2014年1月）」の概要

○ 目次+概略（3～4頁）

当社グループの知財活動の全体像を概観していただけるよう、本報告書の構成および要旨をまとめた「概略」を冒頭の見開きに設けました。

○ 特集（5～14頁）

「良質で低廉な電気を安定してお届けすることにより、地域の発展に貢献する」という当社の使命を果たすために必要な、4つの「現場のチカラ」に焦点を当て、携わった発明者の声を添えて、現場の創意工夫の事例を紹介しています。

テーマ	紹介している成果や事例（抜粋）
つくるチカラ （発電に関する技術）	<p>【計画外停止の未然防止】 火力発電所ガスタービンの保守性を向上</p> <p>【業務運営の効率化】 木質バイオマス混合燃料の安定供給</p>
届けるチカラ （送変電に関する技術）	<p>【電力系統の安定確保】 電力系統事故発生時の停電範囲を縮小</p> <p>【配電線事故時の早期対応】 配電線故障点を早期・高精度に特定</p>
支えるチカラ （送電等をサポートする技術）	<p>【通信設備設計の効率化】 電力系統の監視等に係るマイクロ波無線通信の支障箇所を見える化</p> <p>【お客さま対応の迅速化】 お申込み情報等の入力作業を効率化</p>
広げるチカラ （発電の高効率化や高度利用に関する技術）	<p>【石炭火力発電技術の開発】 石炭火力発電の高効率化・クリーン化</p> <p>【ご家庭内のエネルギーセキュリティの確保】 電気自動車を活用した停電時の電力供給システム</p>

○ 電気事業を支える基盤技術（15～19頁）

良質で低廉な電気の安定供給に欠くことのできない基盤技術（送電配電に関する技術やこれを支える技術）の具体例について紹介しています。

また、基盤技術と特許等の知的財産の関わり（当社グループの特許出願の目的）、特許の価値の定量評価の考え方や算定結果等も紹介しています。当社保有特許の価値の定量評価については、「参考1」を参照ください。

○研究・開発への取り組みと独自技術（20～26 頁）

「安全確保」を前提としたうえで「供給安定性」「経済性」「環境保全」を達成するための研究・開発戦略（重点開発分野とその具体例等）について紹介しています。

また、これらの研究・開発戦略を知財戦略や事業戦略と一体的に推進するための取り組み等についても紹介しています。

○知財戦略推進の基本理念（27～35 頁）

知財戦略推進の基本理念や推進体制，グループ一体となった知財活動の実績等について紹介しています。当社の知財活動においては，研究開発部門のみならず，営業所・発電所・電力所等の現業機関の社員も積極的に発明を創出しており，裾野の広い活動が展開されているのが特徴です。

知財活動の実績は「参考2」を参照ください。

○ 知財リスクへの対応（36 頁）

知財戦略推進の基本理念の一つである「他者の権利の尊重」や，コンプライアンス最優先という考え方に基づく，権利侵害リスクの回避や権利確保の取り組みについて，概要を紹介しています。

○ 商標への取り組み（37～38 頁）

特許とならび重要な知的財産である商標について，当社グループの商標取得状況や，お客さまとの接点である「シンボルマーク」等に対する考え方・取り組み等を紹介しています。

○ CSRの取り組み（39～41 頁）

知財面でのCSRの取り組みとして，当社の技術を活用した国際貢献，研究成果の社外活用を目的とした広報活動や教育支援等の地域貢献活動を紹介しています。